

## 労働者の組織化のための社会民主主義者の活動

マルクスの共産主義綱領は、すでに 1848 年以前につくりあげられていた。その当時、ドイツにおける労働運動は、どのようであったろうか？ その当時には、政治的自由すらなく、共産主義者の活動は、秘密の小サークルにかぎられていた（いまわが国でそうであるように）。すべての人々に資本主義の革命的、統合的な役割を一目瞭然としめした社会民主主義的な労働運動は、その 20 年のちにはじまったのであって、そのときには、科学的社会主義の学説は終局的に形成されており、大規模工業はいつそう広範に普及しており、そして、この学説を労働者のあいだにひろめる有能な精力的な普及者たちが数多くあらわれていた。わが哲学者たちは、歴史的事実にまちがった説明をあたえ、社会主義者が労働運動に意識性と組織性を付与するために費した幾多の労苦をわすれ、そのうえになお、無意味きわまる宿命論的見解をこっそりとマルクスにおしつけている。すなわち、こうである。マルクスの見解によれば、労働者の組織化と社会化はひとりでおこなわれるものであり、したがって、資本主義がありながら労働運動がないとすれば、それは資本主義がその使命を遂行していないからであって、労働者のあいだでのこのような組織化と宣伝のためのわれわれの活動がまだ微弱であるからではない、と。わが国の独自の哲学者たちのこのような素町人的に臆病な逃げ口上は、これを反論するまでもない。あらゆる国の社会民主主義者の全活動が、これを反論している。およそどのマルクス主義者のどの公開演説でも、これを反論している。カウツキーは、まったく正当にこう言っている。社会民主主義とは、労働運動と社会主義との結合である、と。そして、資本主義の進歩的作用がわが国にも「発現」するためには、わが国の社会主義者は、全精力をかたむけて自分の仕事に取りかからなければならない。彼らは、ロシアの歴史と現実とにたいするマルクス主義的見解をもっと詳細に仕あげ、ロシアでは特に混乱させられおおいかにされている、あらゆる形態の階級闘争と搾取を、もっと具体的に考究しなければならない。彼らは、さらに、この理論を平易なものにし、労働者のなかへもちこみ、労働者をたすけてこの理論をわがものにさせ、また、**社会民主主義を普及させ労働者を政治勢力へ結集するためのわが国の条件にもっとも適当した組織形態をつくりあげなければならない**。そして、ロシアの社会民主主義者は、自分たちは労働者階級の思想的代表者としてのこの仕事（この仕事には終りというものがないのだが）をすでに完了し完遂したとは、まだ一度も言ったことがないばかりか、反対に、自分たちはこの仕事をまだはじめたばかりであって、せめてなにか恒久的なものをつくりだすためには、今後なお数多くの人々の多大な努力が必要である、とつねに強調してきた。

第一巻「人民の友」とはなにか P334~335

### コメント

「資本主義がありながら労働運動がないとすれば、それは資本主義がその使命を遂行していないからであって、労働者のあいだでのこのような組織化と宣伝のためのわれわれの活動がまだ微弱であるからではない、と。」という思想に蝕まれている人たちは古今東西どこにでもいる。私たちが「資本主義の進歩的作用がわが国にも「発現」するために」「全

精力をかたむけて自分の仕事に取りかからなければならない。」日本の「歴史と現実とにたいするマルクス主義的見解をもっと詳細に仕あげ、」「あらゆる形態の階級闘争と搾取を、もっと具体的に考究しなければならない。」そして、「この理論を平易なものにし、労働者のなかへもちこみ、労働者をたすけてこの理論をわがものにさせ、」**労働者を社会変革の主体としての政治勢力として結集させなければならない。**